Pearlstein 氏を偲んで

元日本原子力研究所
五十嵐　信一
sigrs@palette.plala.or.jp
日本原子力研究所
深堀　智生
fukahori@ndc.tokai.jaeri.go.jp

また 1 人同世代の知人がこの世を去った。悲しいことです。彼とは 1971 年にウィーンであった核データ評価の専門家会議で初めて会いました。名前はそれ以前から知っていましたが、第一印象はアメリカ人らしくない、どこか暗さを感じたものでした。しかし、一緒に食事をしたり、話をしたりしているうちに人柄の良さを知りました。その後、私がブルックヘブン国立研究所（BNL）を訪問したり、彼の次女が日本に来た折りにうちに呼んだりして、個人的な付き合いもしたので、感慨もひとしおです。

彼が国立核データセンター（NNDC）の初代センター長になったのは 1967 年 9 月で、ご存じの通り、中性子断面積編集センターと断面積評価センターが一緒になって NNDC が発足したときです（この辺の経緯については、深堀智生、核データニュース、No.74、pp.94 の第 8 章を参照して下さい。）が、それ以前の彼は、(n,2n)断面積の解析（BNL897, T-365 (1964)）や超ウラン元素の微分及び積分面積の評価計算（BNL982，T-415（1966 年 Washington Conf)）等をやっていたようです。

所長になってからは ENDF/B、SCISRS（後に CSISRS と改名、EXFOR の基になっている）、RENDA（後 WRENDA）、CINDA、ENSDF の編集、配布、4 センターとの協力などに忙殺されたのではないかと想像しています。それでも、実験データの自動編集と刊行システムの開発（1968 年 Washington Conf.）や断面積の誤差評価（1975 年 Washington Conf.、1979 年 Knoxville conf.）にも携わっていたようです。

しかし、彼が本当にやりたかったのは、私の想像ですが、(n,2n)、(n,3n,)、(n,p)、(n,d)などの核反応データの評価計算ではなかったのかと思っています。センター長になる前にも(n,2n)の計算をやっていますし、その後も断面積の半経験式（J. Nucl. Eng. **27**, 81 (1973)）や 14 MeV 中性子による核反応からの放出中性子の解析（1978 年 Harwell Conf.）等を発表しています。他にも種々あると思います。

（五十嵐記）

私が Pearlstein 氏と最初にお会いしたのは、1988 年に水戸で開催された核データ国際会議で五十嵐さんに紹介していただいたときです。第一印象は、「ユル・ブリンナー（往年のアメリカの大俳優です）に似ていて、ちょっと怖そうで、取っつきにくい」というものでしたが、これはあっさりと覆されることになりました。1989～1990 年の 1 年半、原研の日米核物理協定で、BNL/NNDC にお世話になりました。このときのセンター長が Pearlstein 氏でした。当時、私の家内が長女を妊娠していましたので、身重の彼女を気遣って我々をジョン･F･ケネディー空港まで、彼自身が車を運転して迎えに来てくれました。また、夏になると、我々のアパートにエアコンがないのを知り、彼個人のエアコンを持ってきて、据え付けまで手伝っていただきました。大変助かったことを記憶しています。

この時、私に与えられたテーマは「中高エネルギー核データの評価」であり、Pearstein 氏が改造した ALICE-P を更に私が改造して ALICE-F にし、Pb-208 と Bi-209 の 1 GeV までの中性子及び陽子データの評価を行いました。これ以前に、彼は中高エネルギー領域の全断面積などの系統式及び二次中性子放出二重微分断面積の系統式などを作成しており、これと上述の ALICE-P を用いて Fe-56 の評価も行って、世界に先駆けて中高エネルギー領域の核データ評価を行っていました。この後の核データに関する世界的な動向をみると、彼の先見性には驚くばかりです。その後、この繋がりで Pearlstein 氏が ENDF/B-VI の高エネルギーファイルのために評価した C-12 のレビューや CSEWG 関連等で連絡をとっていましたが、彼の人柄にはいつも「ほっと」させられていましたし、ありがたいと思っていました。

Pearlstein 氏に最後にお会いすることになったのは、2002 年の NNDC 50 周年記念式典（これも、上記核データニュースの記事を参照して下さい）のときですが、相変わらずの Pearstein 節を聞けて、安心していました。昨年（2003 年）の CSEWG にも参加させていただいたのですが、お会いできずにいました。その最終日に無くなっていたことを、翌週、現 NNDC センター長の Oblozinsky 氏から電子メールで知るに及んで、何とも残念でなりませんでした。私のアメリカにおける師でもあり父でもあった彼の死は、私たち家族の上にも重くのしかかっています。Pearstein 氏のご冥福とご家族の早期のご回復を心よりお祈り申し上げます。

（深堀記）